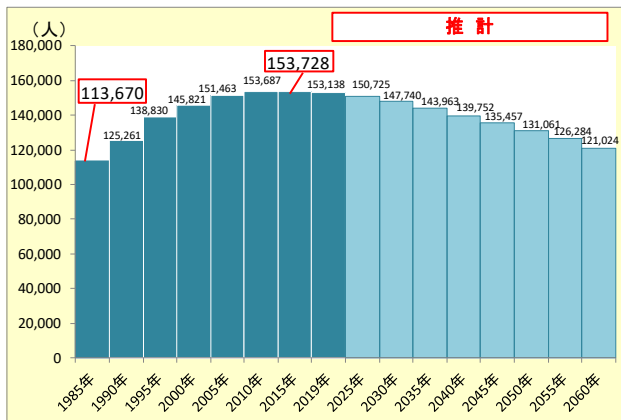


第1章 人口の現状分析

1. 総人口の推移

- 小牧市の人口は1985年以降増加し続け、1985年には113,670人であった総人口は、2015年には153,728人に達しています。しかし、2015年を境に人口減少が始まっており、今後も減少傾向が続くことが推計されています(図1)。

図1. 小牧市の総人口推移と推計

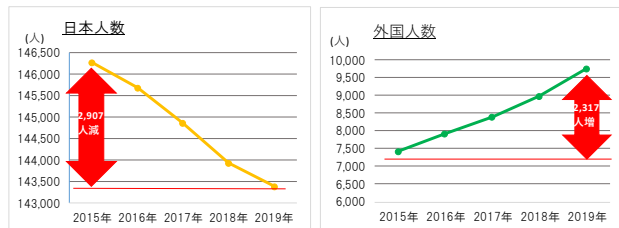


出典：住民基本台帳（各年10月1日現在）
小牧市まちづくり推進計画「基礎調査報告書」

2. 日本人・外国人別の推移

- 過去5年で比較すると、日本人人口が減少傾向にあるのに対し、外国人人口は増加傾向にあります。この傾向は、外国人労働者の受け入れを拡大する改正出入国管理法(2019年4月施行)に伴い、続くことが予想されます(図2)。

図2. 小牧市の日本人外国人別人口の推移



(単位：人)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
小牧市の人口	153,728	153,617	153,289	152,931	153,138
日本人数	146,293	145,694	144,877	143,943	143,386
外国人数	7,435	7,923	8,412	8,988	9,752

出典：住民基本台帳（各年10月1日現在）

- 2015年と2019年の外国人住民数を国籍別でみると、1位はブラジルで変わりませんが、5年間の増加数はベトナム(842人増)、フィリピン(378人増)とブラジル(337人増)を上回っており、インドネシア(131人増)を含め近年は東南アジア国籍の住民が多くなっています(図3)。

図3. 小牧市の外国人の国籍別順位 (単位：人)

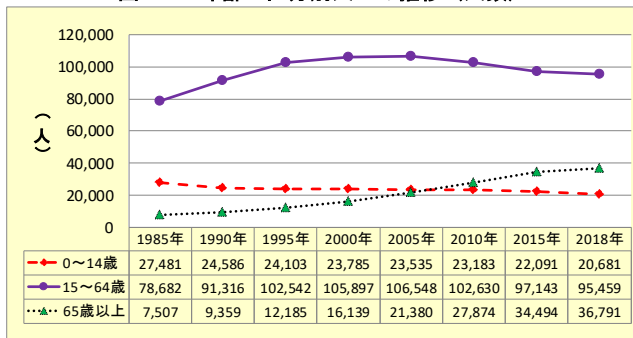
2015年		2019年		増加数(2019年-2015年)				
1位	ブラジル	2,715	1位	ブラジル	3,052	1位	ベトナム	842
2位	中国	1,025	2位	フィリピン	1,379	2位	フィリピン	378
3位	フィリピン	1,001	3位	ベトナム	1,198	3位	ブラジル	337
4位	ペルー	741	4位	中国	1,020	4位	インドネシア	131
5位	韓国及び朝鮮	514	5位	ペルー	800	5位	ペルー	59

出典：住民基本台帳（各年1月1日現在）

3. 年齢3区分別人口の推移

- 小牧市の人口を年齢3区分別にみると、老年人口(65歳以上)は増加し続けており、2018年には36,791人(構成比24.1%)に達しています。一方、年少人口(0~14歳)は減少し続けており、2018年には20,681人(構成比13.5%)となっています。生産年齢人口(15~64歳)は2005年前後をピークに緩やかに減少傾向となり、2018年には95,459人(構成比62.4%)となっています(図4-1、図4-2)。

図4-1. 年齢3区分別人口の推移(人数)



出典：住民基本台帳(各年10月1日現在)

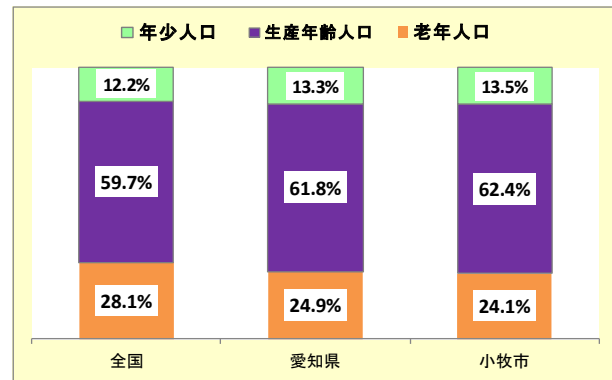
図4-2. 年齢3区分別人口の推移(構成比)

	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2018年
0~14歳	24.2%	19.6%	17.4%	16.3%	15.5%	15.1%	14.4%	13.5%
15~64歳	69.2%	72.9%	73.9%	72.6%	70.3%	66.8%	63.2%	62.4%
65歳以上	6.6%	7.5%	8.8%	11.1%	14.1%	18.1%	22.4%	24.1%

出典：住民基本台帳(各年10月1日現在)

- 小牧市の年齢3区分別人口割合(2018年)を全国や愛知県と比較すると、老年人口の割合は全国や愛知県を下回っており、生産年齢人口と年少人口の割合は全国や愛知県を上回っています(図5)。

図5. 全国・愛知県・小牧市の年齢3区分別人口割合の比較



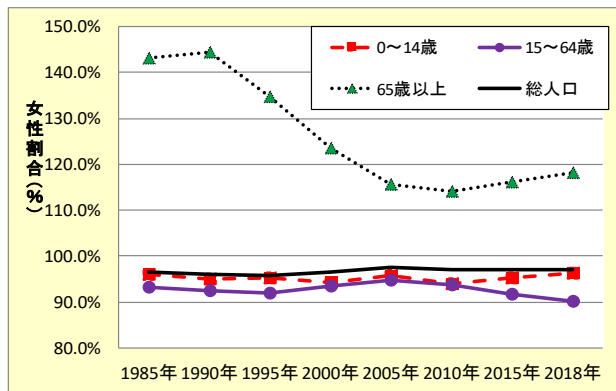
出典：総務省「人口推計」(2018年10月1日現在)
住民基本台帳(2018年10月1日現在)

4. 人口性比

(1) 女性割合の推移

- 小牧市の人口の女性割合は、1985年以降一貫して男性割合を下回っています(男性を100%とした場合の女性比が100%を下回る)。年齢3区分別に女性割合を算出すると、年少人口と生産年齢人口に占める女性割合が男性割合を下回っており、女性が男性よりも少ない状況です。一方、老年人口の女性割合は男性割合を上回っていますが、これは、男女間の平均寿命の差により合理的に説明されます(図6)。

図6. 小牧市の総人口・年齢3区分別人口の女性割合(対男性比)推移

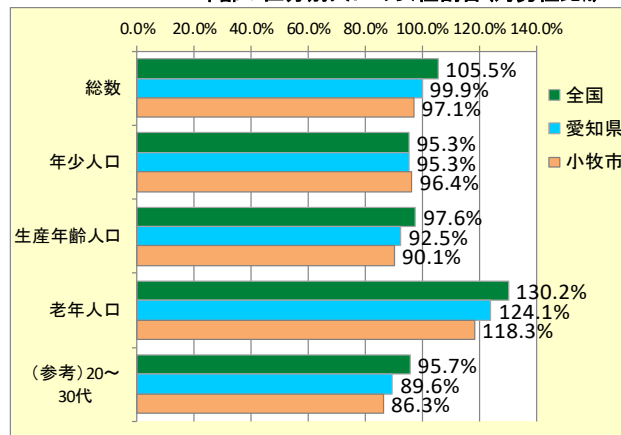


	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2018年
総人口	96.6%	96.0%	95.8%	96.5%	97.6%	97.2%	97.2%	97.1%
0～14歳	96.0%	95.1%	95.3%	94.3%	95.9%	94.1%	95.4%	96.4%
15～64歳	93.3%	92.4%	92.1%	93.4%	94.7%	93.7%	91.6%	90.1%
65歳以上	143.1%	144.5%	134.7%	123.5%	115.7%	114.2%	116.1%	118.3%

出典：住民基本台帳（各年10月1日現在）

- 小牧市の女性割合(97.1%)は全国(105.5%)や愛知県(99.9%)に比べて低い状況です。年齢区分ごとと比較すると、年少人口における女性割合(96.4%)は全国(95.3%)や愛知県(95.3%)と比べやや高いものの、生産年齢人口における女性割合(90.1%)は、全国(97.6%)や愛知県(92.5%)に比べてそれぞれ7.5ポイント、2.4ポイント低い状況です。また、老年人口における女性割合(118.3%)も、全国(130.2%)や愛知県(124.1%)に比べてそれぞれ11.9ポイント、5.8ポイント低い状況です(図7)。

図7. 小牧市・愛知県・全国の総人口・年齢3区分別人口の女性割合(対男性比)



出典：総務省「人口推計」（2018年10月1日現在）
住民基本台帳（2018年10月1日現在）

(2) 女性就業率の推移

- 小牧市の女性就業率を年齢別にみると、出産・育児期にあたる30代で就業率が減少しており、全国や愛知県と同様、いわゆる「M字カーブ」を描いています。小牧市は、20代後半から30代にかけて、5年間で2.8～4.7ポイント改善しているものの、30代の女性就業率が、全国や愛知県に比べて、低い値を示しています(図8-1、8-2)。

図 8-1. 女性就業率 (2015年)

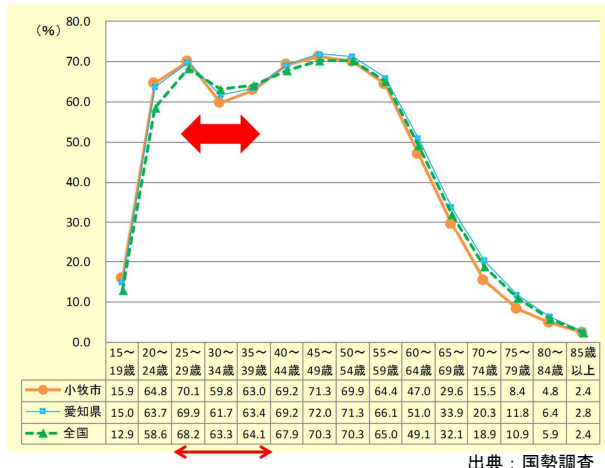
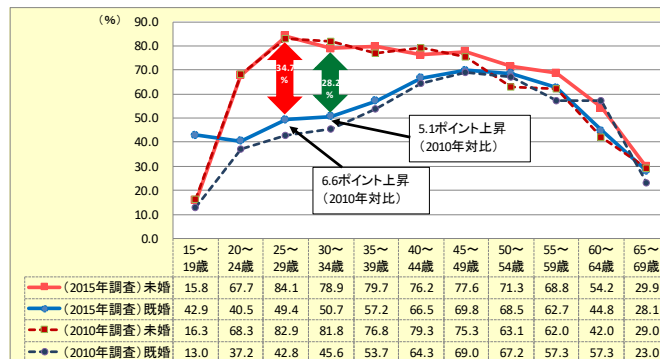


図 8-2. 女性就業率比較 (2010-2015年)

	25～29歳	30～34歳	35～39歳
2015年	70.1%	59.8%	63.0%
2010年	65.4%	57.0%	58.7%
差(小牧市)	+4.7	+2.8	+4.3

- 小牧市の女性就業率は、2010年対比でみると、特に既婚女性において出産・育児期にあたる20代後半から30代前半で就業率が上昇しています。しかしながら、未婚・既婚別の就業率の乖離幅は、2010年対比で改善しているものの、依然20代後半から30代前半で大きく乖離がみられます(図9)。

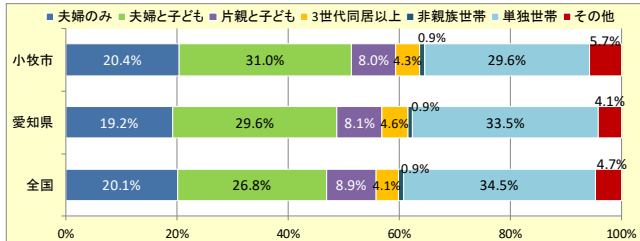
図 9. 女性就業率 (2015年：未婚・既婚別)



5. 世帯構成

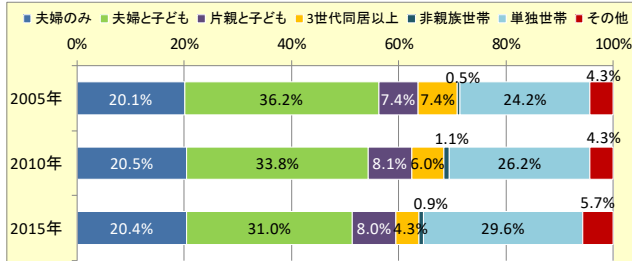
- 小牧市の世帯構成は「夫婦と子ども」世帯が最も多く全体の31.0%を占め、次いで「単独世帯」の29.6%、「夫婦のみ」の20.4%となっています。
- 経年でみると、「夫婦と子ども」世帯が減少傾向となっている一方、「単独世帯」が増加傾向となっています(図11)。

図10. 一般世帯における世帯構成(2015年)



出典：国勢調査

図11. 小牧市の世帯構成比の経年推移



出典：国勢調査

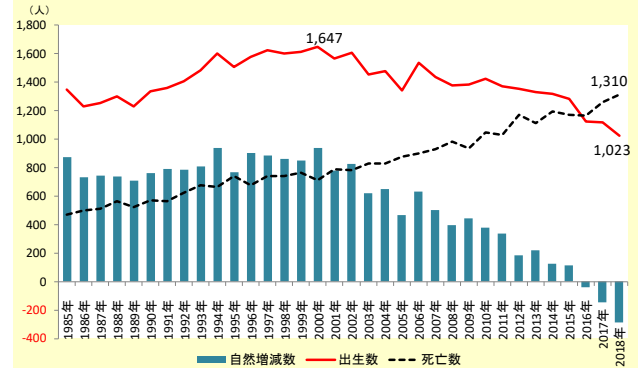
第2章 小牧市の自然動態

1. 自然増減数の推移

(1) 自然増減数の推移(日本人のみ)

- 小牧市の人口の小牧市の自然動態は、1985年以降一貫して自然増(出生数>死亡数)でしたが、2016年を境に自然減(出生数<死亡数)に転じています。要因として、出生数が2000年の1,647人をピークに減少傾向となっている一方、死亡数は増加傾向となっていることが挙げられます(図12)。

図12. 小牧市の自然増減数の推移



出典：住民基本台帳

(2) 自然増減数の推移(外国人含む)

- 日本人は2016年を境に自然動態は自然減となっておりますが、外国人は、一貫して自然増となっております(図13)。

図13. 小牧市の自然増減数の推移(日本人・外国人別)

自然動態(日本人のみ) (単位:人)					
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
出生	1,318	1,280	1,122	1,117	1,023
死亡	1,193	1,170	1,164	1,262	1,310
計	125	110	-42	-145	-287

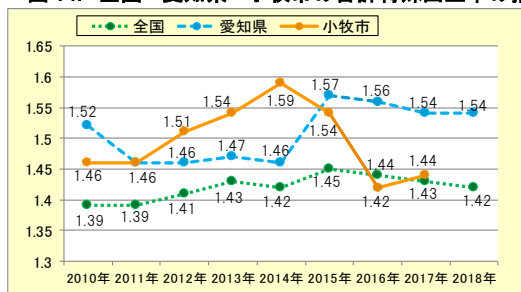
自然動態(外国人のみ) (単位:人)					
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
出生	82	87	96	74	87
死亡	8	13	14	12	14
計	74	74	82	62	73

出典：住民基本台帳

2. 合計特殊出生率の推移

- 小牧市の合計特殊出生率(1.44)は全国(1.43)と比べて同水準となっているものの、愛知県(1.54)と比べると0.10ポイント低い状況です。
- 経年でみても、近年は全国を上回っているものの、愛知県より低い水準で推移しています(図14)。

図14. 全国・愛知県・小牧市の合計特殊出生率の推移



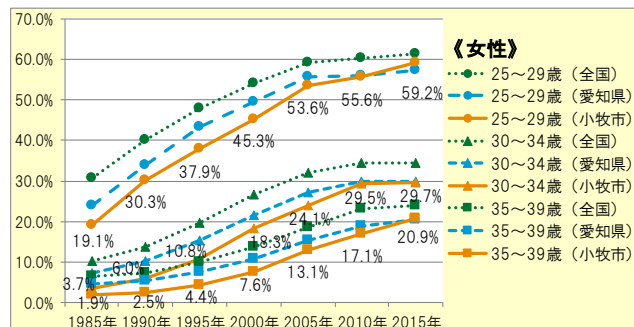
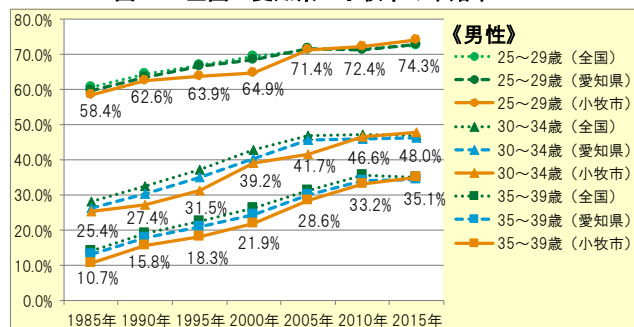
出典：愛知県「人口動態統計」2018, 小牧市資料

3. 未婚率・初婚年齢の推移

(1) 未婚率の推移

- 小牧市の25～29歳、30～34歳、35～39歳の未婚率は、男女とも年々上昇しており、未婚化が進行していることがわかります。また全国・愛知県と比べてみると、男性は全国平均に近い水準で近年推移していますが、女性は全国平均を下回って推移しています(図15)。

図15. 全国・愛知県・小牧市の未婚率

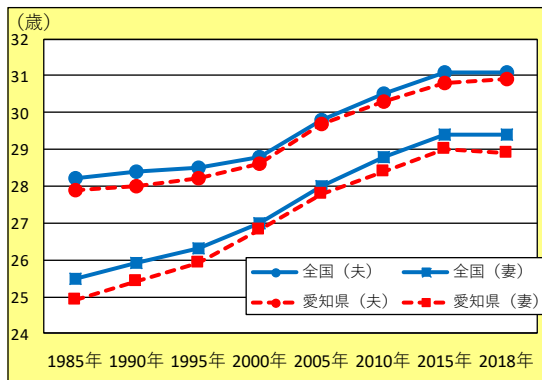


出典：国勢調査

(2) 初婚年齢の推移

- 国と愛知県の平均初婚年齢の推移を見てみると、男女とも長期的には右肩上がりであり、近年は横ばいものの晩婚化が進展しているといえます(図16)。

図16. 全国・愛知県の平均初婚年齢の推移



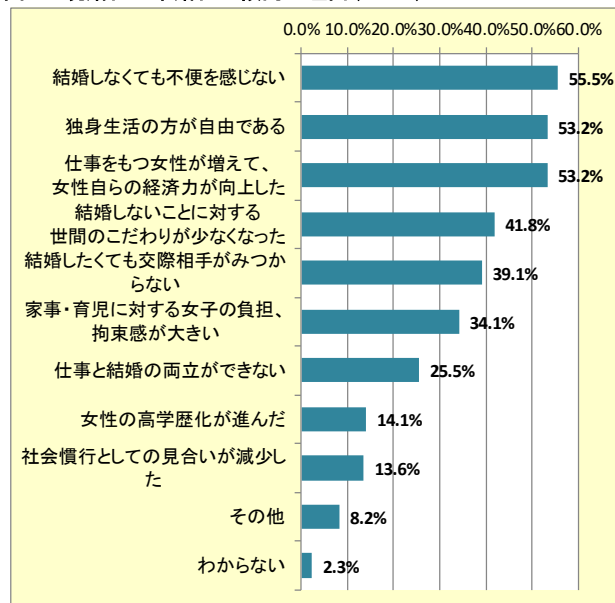
	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2018年
全国(夫)	28.2	28.4	28.5	28.8	29.8	30.5	31.1	31.1
全国(妻)	25.5	25.9	26.3	27	28	28.8	29.4	29.4
愛知県(夫)	27.9	28	28.2	28.6	29.7	30.3	30.8	30.9
愛知県(妻)	24.9	25.4	25.9	26.8	27.8	28.4	29	28.9

出典：厚生労働省「人口動態統計」

(3) 晩婚化・未婚化に関する意識

- 本市におけるアンケート調査では、「結婚しなくても不便を感じない」(55.5%)が最も高く、次いで、「独身生活の方が自由である」(53.2%)、「仕事を持つ女性が増えて、女性自らの経済力が向上した」(53.2%)、「結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった」(41.8%)、といった項目がある一方、「結婚したくても実際相手がみつからない」(39.1%)といった結婚意思がうかがえる項目も見受けられます(図17)。

図17. 晩婚化・未婚化の傾向の理由(N=220) ※複数回答のうち主な回答



出典：小牧市 H30「子ども・子育てに関するアンケート調査」

(4) 出産に関する意識

- 国立社会保障・人口問題研究所の調査によると、理想の子どもの数と予定の子どもの数に差があることがわかります(図 18)。

図 18. 理想と予定の子どもの数の違い

図表Ⅲ-1-5 調査・結婚持続期間別みた、夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数

(1) 平均理想子ども数										
結婚持続期間	第7回調査(1977年)	第8回(1982年)	第9回(1987年)	第10回(1992年)	第11回(1997年)	第12回(2002年)	第13回(2005年)	第14回(2010年)	第15回(2015年)	
0～4年	2.42	2.49	2.51	2.40	2.33	2.31	2.30	2.30	2.25	2.25
5～9年	2.56	2.63	2.65	2.61	2.47	2.48	2.41	2.38	2.33	2.33
10～14年	2.68	2.67	2.73	2.76	2.58	2.60	2.51	2.42	2.30	2.30
15～19年	2.67	2.66	2.70	2.71	2.60	2.69	2.56	2.42	2.32	2.32
20年以上	2.79	2.63	2.73	2.69	2.65	2.76	2.62	2.58	2.44	2.44
総数	2.61	2.62	2.67	2.64	2.53	2.56	2.48	2.42	2.32	2.32
(客位数)	(8,314)	(7,803)	(8,348)	(8,627)	(7,069)	(6,634)	(5,634)	(6,490)	(5,099)	(5,099)

(2) 平均予定子ども数										
結婚持続期間	第7回調査(1977年)	第8回(1982年)	第9回(1987年)	第10回(1992年)	第11回(1997年)	第12回(2002年)	第13回(2005年)	第14回(2010年)	第15回(2015年)	
0～4年	2.08	2.22	2.28	2.14	2.11	1.99	2.05	2.08	2.04	2.04
5～9年	2.17	2.21	2.25	2.18	2.10	2.07	2.05	2.09	2.03	2.03
10～14年	2.18	2.18	2.20	2.25	2.17	2.10	2.06	2.01	1.92	1.92
15～19年	2.13	2.21	2.19	2.18	2.22	2.22	2.11	1.99	1.96	1.96
20年以上	2.30	2.21	2.24	2.18	2.19	2.28	2.30	2.23	2.13	2.13
総数	2.17	2.20	2.23	2.18	2.16	2.13	2.11	2.07	2.01	2.01
(客位数)	(8,129)	(7,784)	(8,024)	(8,351)	(6,472)	(6,564)	(5,603)	(6,462)	(5,099)	(5,099)

注：対象は初婚どうしの夫婦(歳50歳未満)。予定子ども数は現存子ども数と追加予定子ども数之和として算出。理想子ども数、予定子ども数とも8人以上を8として計算(理想・予定子ども数不詳をのぞく)。総数には結婚持続期間不詳を含む。

出典：国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査」

- また、理想の子どもの数を持たない理由について、各年代通じて経済的理由が最も多くなっており、また30歳代では育児負担が比較的多くなっています(図 19)。

図 19. 理想の子どもの数を持たない理由

(複数回答)

妻の年齢(客位数)	理想の子どもの数を持たない理由											
	経済的理由	年齢・身体的理由	育児負担	夫に関する理由	その他	経済的理由	年齢・身体的理由	育児負担	夫に関する理由	その他		
30歳未満 (51)	76.5%	17.6	17.6	5.9	5.9	5.9	15.7	11.8	2.0	7.8	3.9	9.8
30～34歳 (132)	81.1	24.2	18.2	18.2	10.6	15.2	22.7	12.1	7.6	9.1	9.1	12.1
35～39歳 (282)	64.9	20.2	15.2	35.5	19.1	16.0	24.5	8.5	6.0	9.9	7.4	8.9
40～49歳 (788)	47.7	11.8	8.2	47.2	28.4	17.5	14.3	10.0	8.0	7.4	5.1	3.6
総数 (1,253)	56.3	15.2	11.3	39.8	23.5	16.4	17.6	10.0	7.3	8.1	6.0	5.9
第14回(総数) (1,835)	60.4%	16.8	13.2	35.1	19.3	18.6	17.4	10.9	8.3	7.4	7.2	5.6
第13回(総数) (1,825)	65.9%	17.5	15.0	38.0	16.3	16.9	21.6	13.8	8.5	8.3	13.6	8.1

注：対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る初婚どうしの夫婦。理想・予定子ども数の理由不詳を含まない選択率。複数回答のため合計値は100%を超える。予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦の割合は、それらの不詳を除く30.3%である。

出典：国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査」

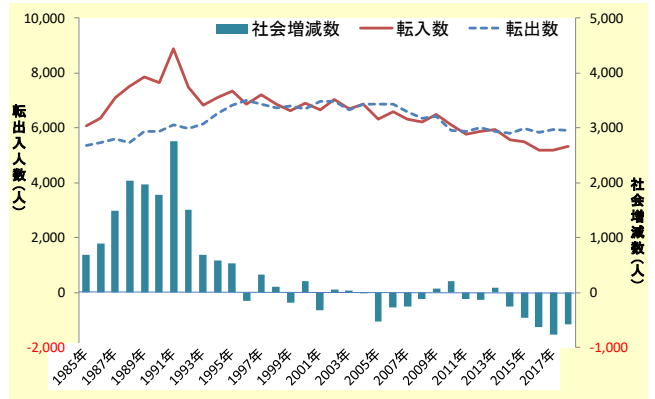
第3章 小牧市の社会動態

1. 転出入者数の推移

(1) 転出入者数の推移(日本人のみ)

- 小牧市の社会動態は1995年まで転入超過を保ってきましたが、1996年以降、転入・転出がほぼ同数となり、転出超過と転入超過を繰り返し、近年は転出超過の傾向が見られます(図 20)。

図 20. 小牧市の転出入の推移

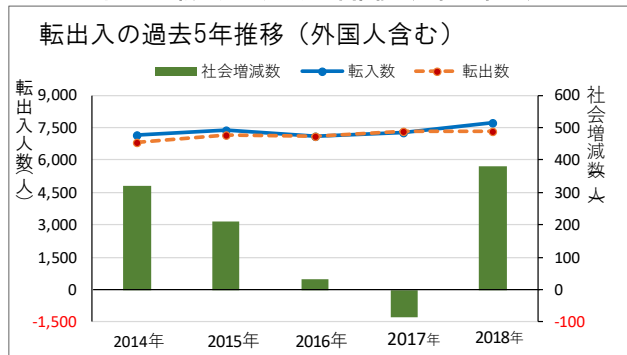


出典：住民基本台帳

(2) 転出入者数の推移(外国人含む)

- 小牧市の外国人を含む過去5年の転出入の推移をみると、2017年を除き、社会増(転入数>転出数)となっています。このことから、近年日本人は転出超過にあるものの、それ以上に外国人が転入超過であることがうかがわれます(図21)。

図21. 転出入の過去5年推移(外国人含む)



社会動態(日本人のみ) (単位:人)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
転入数	5,556	5,509	5,171	5,171	5,336
転出数	5,802	5,964	5,828	5,936	5,908
社会増減数	-246	-455	-631	-765	-572

社会動態(外国人のみ) (単位:人)

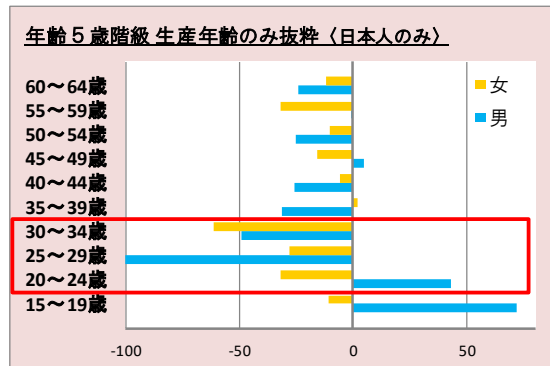
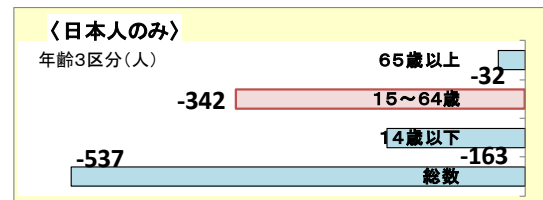
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
転入数	1,584	1,852	1,931	2,075	2,380
転出数	1,017	1,185	1,267	1,394	1,426
社会増減数	567	667	664	681	954

出典:住民基本台帳

2. 男女別・年齢階級別の人口移動状況

- 2018年の小牧市における社会動態(日本人のみ)は転出超過となっています。年齢3区分にみると、すべての区分で転出超過でした。特に生産年齢人口の転出超過数が多く、年齢5歳階級で見ると、25~34歳の男性及び20~34歳の女性の転出超過が顕著です(図22)。

図22. 性・年齢階級別の転出超過数・転入超過数<日本人のみ>(2018年)



出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」(2018年)

- 若年世代(20~40歳代)の社会増減を経年でみると、直近過去3年は一貫して転出超過であり、特に、25~29歳の転出超過が顕著です(図23)。

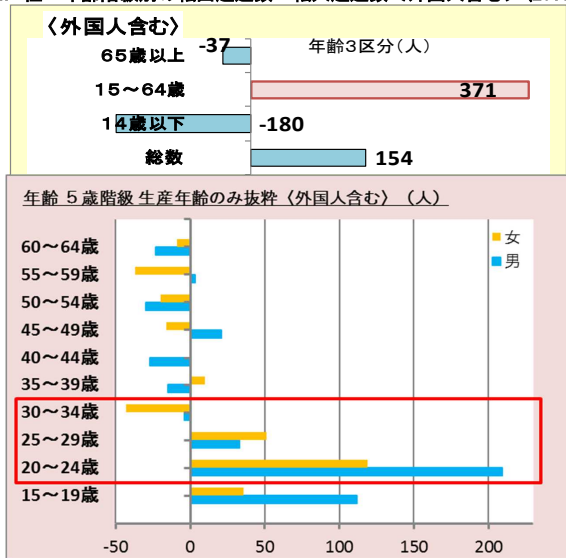
図 23. 20~40歳代の社会増減数(2016~2018年)

	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	計
2016年	25	-159	-179	-42	-35	-69	-459
2017年	-59	-263	-48	-78	-54	-52	-554
2018年	11	-128	-110	-29	-32	-11	-299

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

- 外国人を含めた2018年の社会動態は、生産年齢人口の区分において日本人のみでは342人の転出超過に対して、371人の転入超過となりました(外国人のみでは713人の転入超過)。また、年齢5歳階級で見ると、男女とも20歳代の転入超過が顕著です(図24)。

図 24. 性・年齢階級別の転出超過数・転入超過数<外国人含む>(2018年)



- 転出入者アンケートの結果、単身での転入(59.8%)・転出(49.9%)が大多数を占めました。その理由として、転入・転出ともに就職等・転勤が多い状況です。そのほか、20代・30代では結婚・出産による転出が目立っています(図25-1)。

図 25-1. 小牧市の転出入者の理由

						主な理由	
(単位:人)							
転入							
348	単身 208 59.8%	単身男性 152 43.7%	20代	71	就職等(39)、転勤(18)		
			30代	34	就職等(14)、転勤(12)		
			40代	15	就職等(5)、転勤(4)		
		その他 32					
		単身女性 56 16.1%	20代	36	就職等(27)		
			30代	9	転勤(6)、結婚・出産(2)		
	40代		6	就職等(2)			
	その他 5						
	夫婦のみ 37 10.6%	20代	15	結婚・出産(10)、転勤(2)			
		30代	12	結婚・出産(9)			
		40代	4	結婚・出産(2)			
		その他 6					
夫婦と子 31 8.9%	20代	8	就職等(3)、住居購入(3)				
	30代	10	転勤(3)、住居購入(3)				
	40代	6	転勤(4)				
	その他 7						
	20代	37	就職等(10)、結婚・出産(8)、転勤(6)				
その他 72 20.7%	30代	11	就職等(5)				
	40代	12	同居・近居(3)、結婚・出産(2)、住居購入(2)				
	その他 12						
	転出						
485	単身 242 49.9%	単身男性 155 32.0%	20代	93	就職等(38)、転勤(10)		
			30代	28	就職等(9)、転勤(6)		
			40代	16	転勤(7)、就職等(4)		
		その他 18					
		単身女性 87 17.9%	20代	58	就職等(39)、転勤(3)、結婚・出産(3)		
			30代	12	就職等(4)、転勤(2)		
	40代		6	転勤(3)			
	その他 11						
	夫婦のみ 76 15.7%	20代	30	結婚・出産(22)、転勤(4)			
		30代	28	結婚・出産(18)、就職等(4)、転勤(4)			
		40代	8	就職等(2)、転勤(2)、住居購入(2)			
		その他 10					
夫婦と子 63 13.0%	20代	14	就職等(3)、同居・近居(2)				
	30代	25	転勤(9)、住居購入(6)、就職等(3)				
	40代	10	就職等(3)、転勤(3)				
	その他 14						
その他 104 21.4%	20代	48	就職等(15)、結婚・出産(6)、同居・近居(6)				
	30代	18	就職等(5)、結婚・出産(5)				
	40代	15	転勤(4)、就職等(2)、同居・近居(2)				
	その他 23						

出典：小牧市転出入者アンケート(2018年)

- 小牧市から近隣市町(※)に転出した20～40歳代に対して転出先を選んだ理由を尋ねると、「通勤・通学がしやすい」、「公共交通の利便性が高い」が上位を占めています(図25-2)。また小牧市に住んで不満な点を尋ねると、「公共交通が不便」、「渋滞が多い」が上位を占めています(図25-3)。このことから、交通の利便性が主なネックとなっていることがうかがわれます。

(※)近隣市町…名古屋市、春日井市、一宮市、江南市、犬山市、岩倉市、北名古屋市、豊山町、大口町、扶桑町

図25-2. 転出先を選んだ理由 (20～40歳代)

理由	数	割合
通勤・通学がしやすい	96	41.4%
公共交通の利便性が高い	56	24.1%
実家へのアクセスがいい	32	13.8%
生まれ育ったまち	20	8.6%
日常の買い物が便利	16	6.9%
出産・子育ての環境がいい	8	3.4%
安全で安心してくらせる	4	1.7%
教育環境が充実している	0	0.0%
その他	4	1.7%

図25-3. 小牧市に住んで不満な点 (20～40歳代)

内容	数	割合
公共交通が不便	76	45.2%
渋滞が多い	40	23.8%
治安が悪い	28	16.7%
買い物が不便	16	9.5%
医療機関が少ない	4	2.4%
中心市街地	4	2.4%
公園・緑地が少ない	0	0.0%
子育て支援	0	0.0%
その他	28	16.7%

出典：小牧市転出入者アンケート(2018年)

- 今後の公共交通に期待する役割について確認したアンケートによると、「名古屋に行きやすいこと」が上位に来ています。2027年の品川-名古屋間の中央リニア新幹線の開業が迫る中、名古屋都心へのアクセスの向上についても主な課題となっています。

図25-4. 公共交通に期待する役割

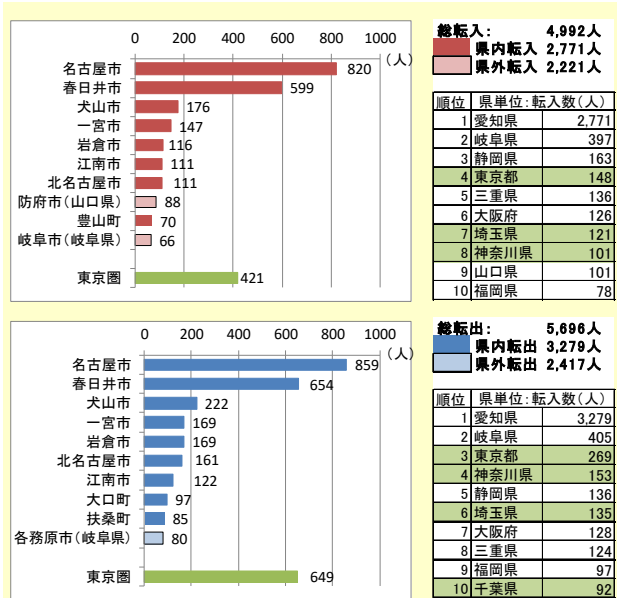


出典：小牧市地域公共交通網形成計画(2018年策定)

3. 小牧市と他地域間の転出入

- 転入元・転出先としては名古屋市と春日井市が圧倒的に多い状況です。そのほか、県内近隣市町間における転出入による人の行き来がみられます。また、東京圏との間における転出入も多い状況です(図26)。

図26. 小牧市の転入元及び転出先(各上位10地域+東京圏)

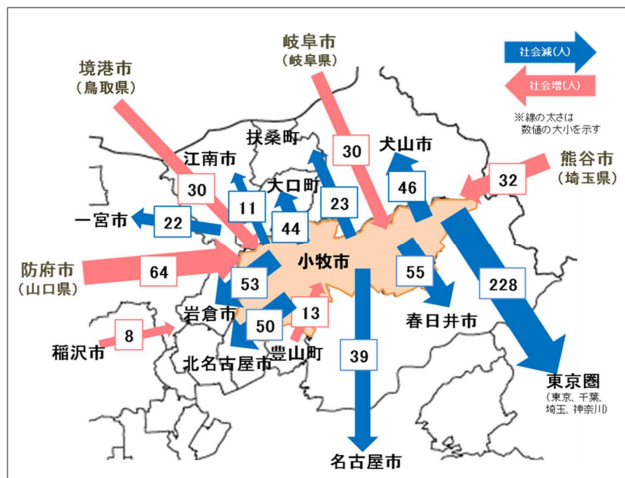


※ 東京圏とは、ここでは東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県の上3都県を指す。

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」(2017年)

- ・ 転出入の差をみると、近隣では、春日井市(55人)を筆頭に、岩倉市(53人)、北名古屋市(50人)などに対して転出超過となっており、また、東京圏(228人)に対しても転出超過となっています。
- ・ 一方、航空自衛隊基地所在地である山口県防府市(64人)、埼玉県熊谷市(32人)など他県からの転入超過が目立ちます。近隣では岐阜市(30人)、豊山町(13人)、稲沢市(8人)などに対して転入超過となっています(図27)。

図 27. 小牧市における転入超過・転出超過の状況(主な地域)



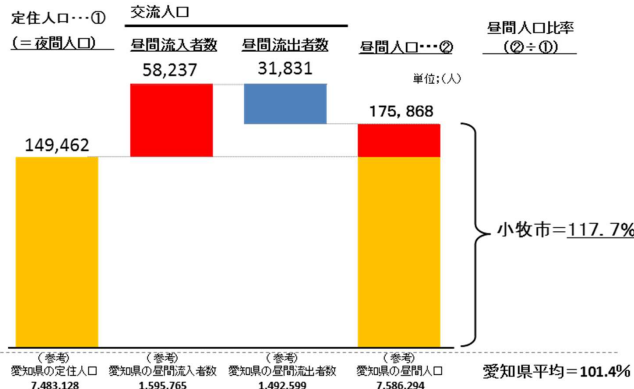
2017年				
転入超過上位5自治体		転出超過上位5自治体		
1 防府市	64人	1 春日井市	55人	
2 熊谷市	32人	2 岩倉市	53人	
3 境港市	30人	3 北名古屋市	50人	
4 岐阜市	30人	4 犬山市	46人	
5 四日市市	23人	5 大口町	44人	
			東京圏	228人

出典：国勢調査

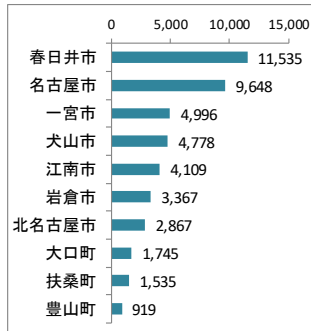
4. 小牧市の昼間人口比率

- ・ 昼間人口比率は、流入超過により約118%となっており、小牧市は愛知県平均(101%)よりも17ポイント高い状況です(図28)。

図 28. 小牧市の昼間人口比率



小牧市への昼間流入元(上位地域)(人)



小牧市からの昼間流出先(上位地域)



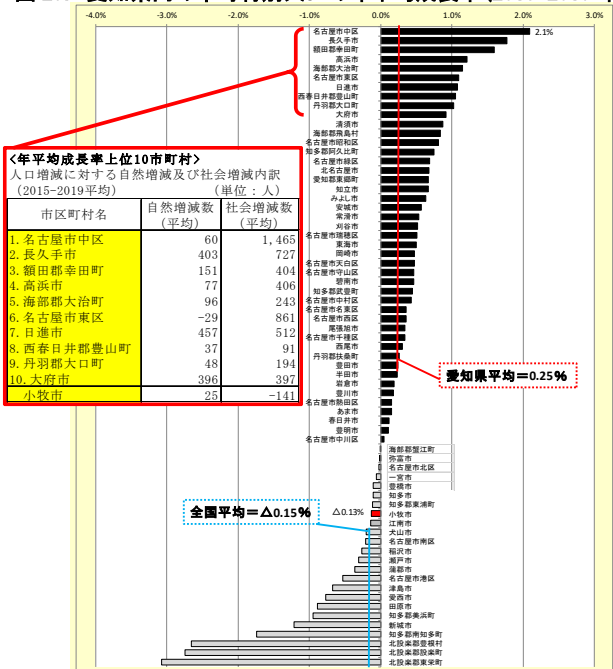
出典：国勢調査

第4章 愛知県内他市町の人口動向

1. 愛知県内他市町の人口動向

- 小牧市の人口年平均成長率は $\Delta 0.13\%$ です。これは、全国平均と同程度ですが、愛知県平均と比べると0.38ポイント低い状況です。一方で、愛知県内において長久手市や幸田町など、人口増加を実現している市町が存在します(図29)。

図29. 愛知県内の市町村別人口の年平均成長率(2015-2019年)



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」(2015-2019)

第5章 小牧市の地区別推移

1. 地区別推移

- 小牧市の人口推移を小牧市区長会地区組織に基づく6地区別で分析すると、小牧南地区・小牧地区・巾下地区・味噌地区・北里地区は2010年比100を超えているのに対し、篠岡地区(特に桃花台地区)が90を下回っており、市の東部地区では市内のどの地区よりも人口減少が進んでいます(図30)。

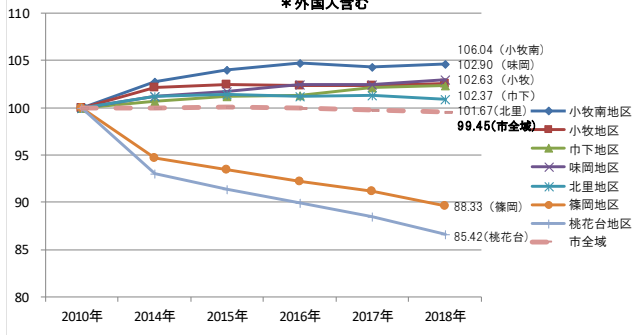
図30. 地区別人口推移(2010-2018)

(2010年=100とした場合の地区別人口推移(外国人含む))

	2010年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
市全域	100	99.95	100.03	99.95	99.74	99.51
小牧南地区	100	102.78	103.97	104.78	104.34	104.66
小牧地区	100	102.19	102.44	102.37	102.37	102.51
巾下地区	100	100.72	101.20	101.32	102.10	102.36
味噌地区	100	101.20	101.75	102.42	102.40	102.94
北里地区	100	101.25	101.37	101.22	101.27	100.86
篠岡地区	100	94.70	93.42	92.17	91.20	89.60
うち桃花台地区	100	93.00	91.41	89.91	88.53	86.65

2010年=100とした場合の地区別人口推移

*外国人含む

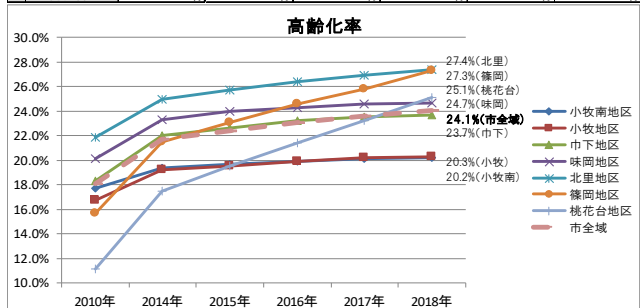


出典：住民基本台帳(各年10月1日現在)

- 小牧市の高齢化率を地区別で見ると、篠岡地区において2010年15.7%から2018年27.3%と大きく増えており、市の東部地区では高齢化が急速に進んでいます(図31)。

図31. 地区別高齢化率(2010-2018)

	2010年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
市全域	18.1%	21.7%	22.4%	23.1%	23.6%	24.1%
小牧南地区	17.7%	19.4%	19.7%	19.9%	20.1%	20.2%
小牧地区	16.7%	19.2%	19.5%	19.9%	20.2%	20.3%
巾下地区	18.3%	22.0%	22.6%	23.2%	23.5%	23.7%
味岡地区	20.1%	23.3%	24.0%	24.3%	24.6%	24.7%
北里地区	21.9%	25.0%	25.7%	26.4%	26.9%	27.4%
篠岡地区	15.7%	21.5%	23.1%	24.6%	25.8%	27.3%
うち桃花台地区	11.1%	17.5%	19.5%	21.4%	23.2%	25.1%



出典：住民基本台帳(各年10月1日現在)

2. 桃花台地区の状況

- 桃花台地区において、近年人口減少・少子高齢化が急速に進む背景に、桃花台ニュータウンの問題が挙げられます。
- 桃花台ニュータウンは、昭和46年度に都市計画決定がなされ、当初の計画人口約54,000人(以後40,000人に計画変更)・事業面積約322ha(以後321.5haに計画変更)で事業開始されました。昭和55年8月より入居を開始し、人口・世帯の増加を続けてきました。しかし、平成17年28,000人をピークに人口減少局面を迎えており、平成18年の新交通システム桃花台線「ピーチライナー」の廃線などを経て、平成30年10月現在22,663人(ピーク比約20%減)となっています。

第6章 人口の将来展望

1. 目指すべき将来の方向

(1) 現状と課題の整理

- 2015年を境に人口減少はじまる(年平均△0.13%) (p.125)
 - ・日本人は人口減(5年で2,907人減)も外国人増(5年で2,317人増)により人口減の幅を食い止めている(p.2)
- 自然動態(日本人のみ)は2016年以降自然減(p.10)
 - ・出生数の減(p.10)
 - ・20～30代の女性比率が低い(2018年86.3%) (p.6)
 - ・男女とも未婚率が上昇(p.12)
- 社会動態(日本人のみ)は、2014年以降転出超過(p.16)
 - ・日本人は転出超過(2018年:△572人)であるものの、外国人は転入超過(2018年:+954人) (p.17)
 - ・日本人は20～30代で転出超過が顕著(p.18,19)
 - ・近隣市町間では豊山町を除き、転出超過(p.23)
 - ・近隣市町間での転出要因として、公共交通の利便性が挙げられる。2027年の品川-名古屋間の中央リニア新幹線の開業が迫る中、名古屋都心へのアクセス向上が課題(p.21)
- 外国人人口の増加(p.2)
 - ・近年外国人の転入が増加(5年で2,317人増)
 - ・国籍別では近年東南アジア国籍の方の転入が多い
 - ・今後は外国人との共生がより一層求められる
- 東部地区(特に桃花台地区)の人口減少・高齢化の進展(p.26,27)

(2) 目指すべき将来の方向

- 地方創生に向けた目指すべき将来の方向については、国と同様「継続を力」にし、より一層充実・強化に向けて取り組む必要があることから、引き続き以下の3つを継続しつつ、現状と課題を踏まえた取組みを進めます。
 - 多くの企業が立地する小牧市ならではの強みを活かす
 - 若年世代の仕事と子育ての両立を支援し、ライフステージに合わせた居住環境を提供する
 - 小牧市の魅力を小牧市民及び近隣市町の生活者に伝える

2. 人口の将来展望

- 2015年度に作成した人口ビジョンに対し、実際の人口推移を見てみると、2019年現在153,138人であり、シナリオ1及びシナリオ2を上回る数値で推移しております(図32-1、32-2)。

【シナリオ1】現状シナリオ(2015年推計)

人口減少克服に向けた施策を実施しなかった場合(以下の前提における推計)

前提1:小牧市住民基本台帳の数値(2010年10月1日現在の男女別年齢5歳階級人口)を基に推計。

前提2:諸変数(合計特殊出生率、純移動率等)は国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠。

【シナリオ2】出生率上昇シナリオ(2015年推計)

目指すべき将来の方向に沿った今後の施策の効果が現れた場合

(シナリオ1に、以下の仮定を加えた推計)

仮定:合計特殊出生率が、1.55(2010年)、1.80(2030年)、2.07(2040-2060年)と段階的に向上。

図32-1. 将来人口推計

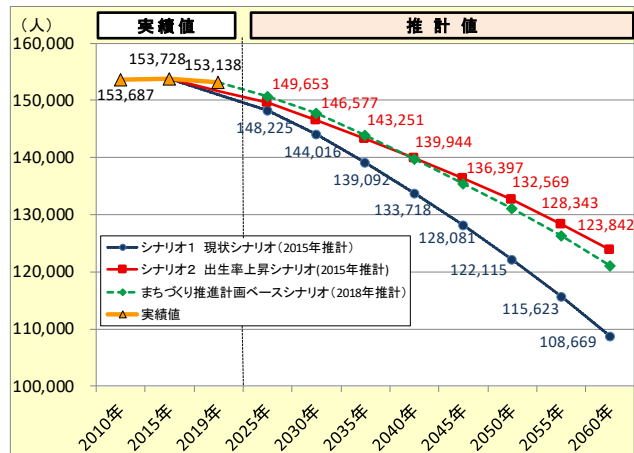
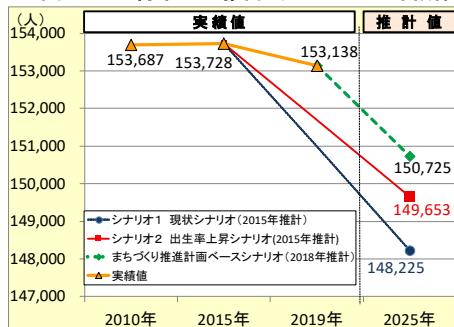


図 32-2. 将来人口推計 (2010 - 2025 年抜粋)



- 2015 年度に作成された年齢 3 区分別将来人口推計は以下のとおりです。(図 33)。

図 33. 年齢 3 区分別 将来人口推計

		実績値					推計値				
		2010年	2019年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
シナリオ1	総人口	153,687	153,138	148,225	144,016	139,092	133,718	128,081	122,115	115,623	108,669
	年少人口	23,183	20,246	18,762	17,066	16,048	15,289	14,428	13,382	12,336	11,391
	構成比	15.1%	13.2%	12.7%	11.9%	11.5%	11.4%	11.3%	11.0%	10.7%	10.5%
	生産年齢人口	102,630	95,626	91,870	88,752	83,368	75,898	70,472	66,163	61,829	58,351
	構成比	66.8%	62.4%	62.0%	61.6%	59.9%	56.8%	55.0%	54.2%	53.5%	53.7%
老年人口	27,874	37,266	37,593	38,198	39,676	42,531	43,181	42,570	41,458	38,927	
構成比	18.1%	24.3%	25.4%	26.5%	28.5%	31.8%	33.7%	34.9%	35.9%	35.8%	
		2010年	2019年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
シナリオ2	総人口	153,687	153,138	149,653	146,577	143,251	139,944	136,397	132,569	128,343	123,842
	年少人口	23,183	20,246	20,191	19,601	19,701	20,141	20,228	19,708	18,868	18,289
	構成比	15.1%	13.2%	13.5%	13.4%	13.8%	14.4%	14.8%	14.9%	14.7%	14.8%
	生産年齢人口	102,630	95,626	91,869	88,778	83,874	77,272	72,988	70,291	68,017	66,626
	構成比	66.8%	62.4%	61.4%	60.6%	58.6%	55.2%	53.5%	53.0%	53.0%	53.8%
老年人口	27,874	37,266	37,593	38,198	39,676	42,531	43,181	42,570	41,458	38,927	
構成比	18.1%	24.3%	25.1%	26.1%	27.7%	30.4%	31.7%	32.1%	32.3%	31.4%	

- 現時点においてシナリオ 2 を上回る形で推移しておりますが、2040 年を境に下回ることが想定されます。
- 以上のことから、引き続き目指すべき将来の方向に沿った施策を展開することによって、シナリオ 2 を目指し、本市の人口減少を克服していくこととします。